

5 活用できる社会資本の例

5-1 課題（テーマ）設定の考え方

課題は、主に道路、都市、河川、港湾などにおける「具体的な施設およびそれらによって構成される空間」とし、具体的な課題の設定は、基本的に、児童・生徒の認識、自覚を前提としますが、教師があらかじめ用意しておく課題の選定に当たっては以下の点に留意します。

①学習指導要領の「3つの課題」に留意した課題とする

社会資本を課題とした総合的な学習の時間として、社会資本を理解することは当然のことではありますが、学習指導要領で例示された「3つの課題」と整合した課題（テーマ）とする必要があります。

②課題の発展性、展開の容易さなどを勘案する

課題は、児童・生徒にとってわかりやすく、幅広く展開しやすいことを勘案する必要があります。

先に示した、4つの学習指導コンセプトについて、対象とする社会資本の学習指導コンセプト①発案、②建設、③デザイン、④貢献に対する資料が整備されているか、あるいは関係者の話を聞くことができるかなどから、課題の発展性や展開の容易さを判断することも一つの方法です。

5-2 社会資本を活かした学習

ここでは、社会資本の特徴を活かして、児童・生徒の興味・関心を喚起し、社会資本から自分の学習課題を発見し、発見した課題について学習の幅や広がりを持つことができるよう工夫した学習の内容を以下の項目別に実施例を交えて紹介します。

(1) 子供たちの興味を惹く工夫をする“体感・体験させる”

(2) 技術（匠の技）を理解させる工夫をする

(3) 調べる（測定する）、土木資材、器材を活用する

※校外活動での留意点

社会資本を課題とした学習では、必然的に学校外のフィールドに出て学習する機会が多くなることが予想されます。その場合、現場の状況をよく確認する必要がありますが、その際の留意点を場所の条件例として示します。

① 生徒に説明できる安全な場所があるか

② 集合できる場所があるか

③ トイレがあるか

④ 木陰など日陰となり、休息できる場所があるか

⑤ スケッチできるような広いスペースがあるか

⑥ 対象となる建造物を実測できるような広いスペースがあるか

⑦ 駐車場があるか

⑧ 弾力的な対応計画：気象条件、学習の進展条件などに配慮があるか 等